

このニュースに掲載されている今後の様々なイベントの詳細に関するお問い合わせは、全国青年ネットワーク事務局のブログでどうぞ。全国青年ネットワークMでもご案内しています。これを機会にぜひご登録を。Mの上で登録可能。

08青年大会の可能性も議論

各教区青年担当者の集い開催

二月十日、日、各教区青年担当者の集いが名古屋生青年センターで行われ、各教区の青年担当者、管区宣教主事、青年委員会委員が集い、各教区の現状、日韓聖公会青年セミナーや辺野古での活動状況が報告され、諸課題について検討した。

二〇〇七年には、八月にソウルで開催される日韓聖公会青年セミナー、九月に英国で開催される全聖公会国際青年大会などのプログラムに加え、引き続き辺野古への取り組み等も継続して行われる。今回の集いでは、こうしたプログラムを各教区がいかにか活用していくか、どう教区のプログラムと連動させるか等について話し合われた。

また、これまで全国青年大会は四年に一度行われており、今回は二〇〇八年に開催される運びとなるが、各教区の担当者からは、ぜひ開催したいとの意見が占められた。内容的には前回の九州での開催のように、青年達が地元で取り組んでいることを全体で分かち合えるようなものがいいのでは、という声が多く聞かれた。

次回(七月)の各教区青年担当者の集いにおいて、青年大会の開催方法や内容について具体的に検討することとし、会を閉じた。(青年ネットワーク事務局/相原)

京都

二月二四日に「ぼこぼこ」が開催された。主催はまったり委員会(京都教区青年有志の集まり)：代表は矢萩司祭。青年の集まりをぼこぼここと開催しようという主旨でぼこぼこ行なわれている。今回は京都聖ステパノ教会で開催され、大阪教区からの参加もあり、参加者は八名。鍋をつつきながら、それぞれ現状報告や、これからの人生について語り合った。次回は六月に金沢で開催する予定。今の京都、大阪教区の子供の現状は、社会における青年の就業状況と密接に絡んでいることを感じた。青年たちが教会を担うためにも、社会の中でどのように生きていくのか、ぼこぼここと集まって語り合う機会がますます重要だと感じた。蛇足だが、教育部関連の集まり(ぼこぼこも含む)に参加した人数がカウントされ、年間延べ参加人数百人を目指している。プロジェクトが開始している。教区報にカウント数が入字されている。チェックしてみよう！(大津聖マリア/小林聡)

九州

昨年からは始めた平和を考えるプログラムの夏の企画を今年も八月八日、十日の日程で計画。また、七月二二、二五日に長崎で行われる聖保連全国保育者大会に、平プロのメンバー数名がフィールドトリップのガイドとして応援参加の予定です。(久留米聖公会/早川成)

去る二月二三日から五日まで、九州教区平和を考えるプログラム「長崎に立つ」を開催することができました。

案内書を発信する前に申し込んでくる他教区の熱心な参加者もあり、そんなやる気があるならいっそ運営もお願いしたい!?!と思いつつの開催でした。

参加者総勢二二名。東京、中部、京都、大阪、沖縄と他教区からの参加が一三名でとうとう九州教区に上回る事態に。そして五十嵐主教も部分参加されました。高校の社会科教諭新海智弘氏の講演、また被爆者深堀悟氏のガイドによるフィールドワークな

中部

ど、仲間が集まり、新たな出会いも得ての大切な学びの場で、力与えられる三日間でした。以下、参加者の言葉を紹介します。「少数であっても、正しいと思うことに向かって戦う」、「家族、友達、ものを大切に『生きる』ようにして下さい、という言葉をお聞きし、戦争に反対することの大切さを再確認できました。」(今回学んだように、しっかりと目を向け、その上で考えていかなければと思いましたが、自分で闘わねば、これから先の日本は恐ろしい世界になってしまうかもしれません。」「教育勅語の文を読み、改めて教育とは何なのかを考えさせられ、また、教育されてきた自分自身や周りの人について不安になりました。」(自分とは何か、人とは何か…。すぐにはわからないと思うし一生かかるかもわかりません。でも、今見えているもの、今回学んだことを「今」の自分で考えて、正しいと思つたことをやっていたいと思います。(戸畑聖アンデレ教会/司祭マルコ柴本孝夫)

中部教区では、三月に司祭挨拶された下原司祭をお祝いする会と称して、青年が四月二九・三〇日に岐阜聖パウロ教会で集まりました。

二九日は岐阜聖パウロ教会の礼拝に出席することから始まりました。小道具を使った下原司祭らしい(?)お説教で、引き込まれ、考えさせられる内容でした。教会の方が準備して下さったお昼ご飯(感謝!)を頂きながら、しばし歓談。その後、下原司祭のリュウエストのカポチャプリンと白玉をみんで作っていただきました。夕食は、キャンパスの定番カレー。インスタントコーヒーや、トマトジュースが入って複雑なおいしいカレーでした。暗くなったところで岐阜の名物の夜景を下原司祭の案内で行き、帰りにスーパー銭湯へ。夜は、用意してあったお菓子が驚異的な速さで減る中、下原司祭や参加者のいろいろな素顔が明らかになりました。

三〇日は、午前中岐阜県美術館でゆつくり過ごし、お昼を教会の近くのとんかつ屋さんで頂いて、解散になりました。途中参加、幼児も含めて述べ十二名の参加があり楽しい集まりが出来たこと

東北

宣教師が主催のユースキャンプが二〇〇四年から始まり、今年で四回目を迎えます。今年、八月一三日から一五日まで日程で、開催場所は昨年同様、十和田湖畔で行われます。内容としては、ワーク、聖書の内容を実際に演じてみるバイブルページェントなどを考えています。毎年続けて参加するメンバーも多数いて、このユースキャンプを楽しみにしているように、企画する側としても嬉しい限りです。キャンプに参加したメンバーがそれぞれ所属している教会で、主日礼拝の奉仕、教会行事の手伝いを積極的に行ってくれているようです。歩みとしてはゆっくりに着実にユース世代が育ってきていることを実感しております。どうぞ、お祈りください。

(弘前昇天教会/司祭越山哲也)

に感謝です。特に目新しいことは何も行っていませんし、プログラムも成り行きで決まっています。ただ教会にみんなが集まって過ごすことで心が満たされるということを再確認できたイベントでした。(一宮聖光教会/水谷百合)

写真家・松本紀生氏

アラスカ・フォトライフショー感動のアラスカの映像や写真を緩やかなBGMとともに送ります。

日時●五月二九日(火)午後七時開演 場所●京都復活教会 料金●千円

(お問い合わせは、藤本 hichiro@earthlink.net)

フリーピン・スタディツアー

★旅程●八月一日ニノイ・アキノ国際空港着●一日●フリーピン的一般状況についての学習、メトロマニラ地区訪問●二日●ナポタス漁港、トンド地区など訪問、住民との交流●二日●マニラからセブ島へ(二二・二五日)●セブ島、ボホール島政府開発援助をめぐるとツアー●二五日●セブ島からマニラへ●二六日●自由行動、交流会●二七日●ニノイ・アキノ国際空港発●参加費 十九万四(国際線航空運賃、フリーピン国内移動費、宿泊費、保険費用、プログラム費、学習会の費用等)★申込●七月三二日迄に、名古屋生青年センター(〇五二七七八一〇一六五)まで★主催●フリーピン情報センター・ナゴヤ、名古屋生青年センター、日本聖公会中部教区宣教師海外協働プロジェクト

発行 **日本聖公会全国青年ネットワーク事務局**
 名古屋市昭和区宮東町280
 名古屋生青年センター内
 tel 052-781-0165 fax 052-781-4334
 e-mail youth.po@nsskk.org
 www.nsskk.org/province/youth/